

パルシステム生産者・消費者協議会

第29回 通常総会

《次第》

1. 開会の辞

2. 代表幹事挨拶

3. 来賓挨拶

4. 議長選出

5. 書記任命・議事録署名人選出

6. 議案審議

第1号議案 2017年度活動報告並びに決算報告・監査報告承認の件

第2号議案 2018年度活動方針並びに予算案承認の件

7. 議長解任

8. 閉会の辞

もくじ

第 1 号議案	2017 年度活動報告並びに 決算報告・監査報告承認の件-----	1
---------	--------------------------------------	---

第 2 号議案	2018 年度活動方針並びに 予算案承認の件-----	9
---------	--------------------------------	---

【資料】	-----	12
------	-------	----

【規約】	-----	25
------	-------	----

第1号議案

2017年度活動のまとめ並びに決算・監査報告承認の件

《2017年度の振り返り》

2017年度は昨年に引き続き災害や天候に影響を受けた1年となりました。7月の九州北部豪雨は福岡県、大分県に甚大な被害をもたらし、生消協でもJA筑前あさくらに対し御見舞をお渡ししました。また、局地的な天候異常や夏場の長雨等は作物の生育・収穫等に大きな影響を与え、生消協の各種会議でも産地の労苦が報告されました。

このような中、生消協では2016年度に作成した産地ビジョンを活用し、ブロック会議や研修等で農業情勢の変化に対応する事例報告・学習を行い、さらに次世代の産地・パルシステムとの産直を支える人材育成機会として若手リーダー研修を行ってまいりました。経営者向けの連続企画や各回で完結した単発の先進産地視察研修を通じてパルシステムのOBや生消協産地が講師となり会員産地に伝える活動を推進しました。

このほか、青果フォーラムでは生産者と消費者がともに対等な立場でエコ・チャレンジ基準について意見交換を行い、女性生産者交流会や青年農業者交流会では「女性」や「青年」といった視点からの報告が行われ、参加産地の連帯を深めることができました。

エコ・チャレンジ基準見直し検討委員会への委員派遣も実施し、生産者が直面する今日的な課題解決から将来に向けて種をまく活動まで幅広く取り組んだ1年となりました。

《重点方針と具体的施策》

- I 農業を取り巻く状況に危機感を持ち、「産地ビジョン」づくりを通して産地の基盤を固めます。
- ①「産地ビジョン」冊子を活用し、産地の取組み・課題等を共有します。
→各ブロック会議において完成した産地ビジョンについての説明、受入産地のビジョン報告等を行いました。
→公開確認会においても産地ビジョン作成について報告を行い、当日の説明資料としての活用を行いました。また、各会員生協主催の交流会や産直講座等で、産地紹介の資料として活用を行いました。
 - ②国産志向を高める学習を行い、食料自給率向上に取り組めます。また、飼料米を使用したこめ卵、こめ豚、こめ鶏の普及を後押しします。
→生産者運営委員会にて部会活動について議論を行い、米部会と畜産部会・鶏卵部会の連携について模索しました。
 - ③農業情勢の変化や少子高齢化社会への対応について、牽引する次世代リーダー育成を継続します。
→昨年に引き続き若手リーダー研修を実施しました。2017年度は経営者向け（3回連続）企画に加え、先進事例（産地）から学ぶ各企画回完結型の単発企画を3回実施しました。
 - ④女性生産者間の交流の場の拡大と、女性の活躍について学習できる場として女性生産者交流会への参加を呼びかけます。

→有限会社やさか共同農場（島根県）にて第16回女性生産者交流会を開催しました。18産地60名の生産者と生消協役員6名、株式会社ジーピーエス職員1名、株式会社パル・ミート職員1名、パルシステム連合会職員4名の合計72名が参加し交流を深めました。

⑤農業情勢や労働力不足への対応について、国内外の先進事例から学ぶ機会を創出します。

→幹事研修会において野菜くらぶ（群馬県）を視察し、労働力確保と女性の働きやすい職場づくりのため、敷地内に託児所を開設したことについて説明を受けました。

→若手リーダー研修で訪問した無茶々園（愛媛県）では、1ターンした若手職員との交流、海外研修生の受入、福祉施設視察等を行い知見を深めました。

→ブロック会議では少子高齢化が進み、今後さらなる労働力不足が懸念される農業経営について生産者と消費者を交えた意見交換が行われました。

⑥産地がそれぞれの地域や行政と連携して、都市・地方のコミュニティ再生に取り組んでいる事例について学びます。

→各ブロック会議において産地の取り組み事例から学びました。

→産直連続講座において産地としての生産機能のみならず、地域づくりに参画している事例にも触れ、説明を行いました。



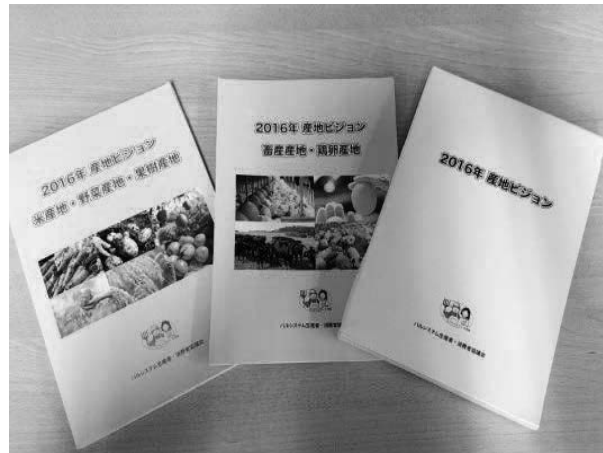
▲東北・北海道ブロック会議の様子



▲女性生産者交流会の様子



▲幹事研修会（野菜くらぶ・託児所視察）



▲冊子化された『2016年産地ビジョン』

Ⅱ 環境保全型農業を推進します。

① コア・フード、エコ・チャレンジ基準農産物の生産と消費の拡大に取り組みます。

→連合会で行われた産直ごはんの日（来場者：210名）にコア・フード米、エコ・チャレンジ米の試食と産地の取り組みのPRを行いました。

②生産に関するリスク管理の仕組みづくりを推進します。

→青年農業者交流会では天敵を活用した防除について宮崎大学農学部の大野教授に学びました。

→青果フォーラムでは、①エコ・チャレンジ基準見直しについての報告、②「農薬ローテーションと薬剤抵抗性の管理」と題した講演・質疑を行ったうえで各産地の現状報告・意見交換を行いました。

③化学合成農薬・化学合成肥料の削減による土作りを継続し、生物多様性に寄与する環境保全型農業を推進します。

→各産地において生き物調査や環境保全型農業に関する取り組みを継続しました。

④より多くの組合員に環境保全型農業への理解を深める機会を作り、消費拡大に努めます。

→青果フォーラムにおいてエコ・チャレンジ基準見直しについての議論を実施し、消費者幹事を交えた意見交換を行いました。

→産直連続講座を活用し、生産者自らが講師となり日々の努力やこだわりについて直接組合員に伝えました。

⑤エコ・チャレンジ基準の見直しの検討をはじめます。

→産直委員会（パルシステム連合会）主催のエコ・チャレンジ基準見直し検討委員会に5名の委員を派遣し、議論を深め答申に向けた議論を進めました。また、検討委員会の進捗・協議内容は幹事会や各種委員会で出席者が報告を行い、適宜意見交換を行いました。



▲産直委員会の様子



▲産直ごはんの日の様子

Ⅲ 農産物の品質向上を目指します。

① 生産者と消費者の品質に対する考え方を共有し、品質向上の取り組みを継続します。

→若手リーダー研修では株式会社ジーピーエスにて品質管理基準や消費者である組合員に求められる品質の確保について学びました。

→各ブロック会議において産地による品質管理体制と質を確保する取り組みについて視察を行いました。

② 出荷基準の確認・見直しの場の設定など部会での議論を行います。

→各部会において産地の現状報告を行い、生産者運営委員会にて部会を超えた生産者同士の連携について模索を行いました。

③ 農産物の付加価値向上による生産者の所得向上を目指します。

→産地訪問企画（ブロック会議、若手リーダー研修、公開確認会等）において、社会情勢に対応した収入確保のための工夫について学びました。

④ 昨年に引き続き、物流問題における品質向上やコストなど、調査・研究します。

→下期合同ブロック会議において産地ごとの課題の共有を行い、特に物流費高騰に伴う産地の今後の対応について意見交換を行いました。



▲若手リーダー研修（ジーピーエス、小分け作業見学）



▲若手リーダー研修（経営者向け・連続企画）



▲関東・中部ブロック会議の様子



▲関西・以西ブロック会議（ハウスレモンの圃場視察）

IV 生消協および産地の取り組みを「伝え」、「交流する」活動に取り組みます。

① パルシステムの「ほんもの実感！」くらしづくりアクションへの取り組みに積極的に参加します。

→パルシステム東京のセンター研修に企画段階から参画し、年3回の学習会（毎回約40名が参加）と1回のセンター祭に参加・協力をしました。

② 産直連続講座を始めとした学習会や組合員交流会を積極的に開催します。

→産直連続講座を28回開催し、商品の魅力やこだわり、産地の苦勞を伝える学習会を開催しました。今年度は合計687名の参加があり、生産物や商品への理解を深めました。

③ 東京電力福島第一原発事故以降、各産地での放射能低減の取り組みを引き続き行い、福島県民や近県住民の現状を伝える学習活動を展開します。

→パルシステム茨城、パルシステム群馬の産直講座で、JAつくば市谷田部原木しいたけ生産における、原発事故以降の原木調達の困難さ等、原発事故の影響について学びました。

④ 配送同乗体験や職員・組合員学習会を開催し、その効果を検証します。

→青年農業者交流会での会員生協別交流を実施し、生産者の日々の取り組みや努力を伝える学習・

配送同乗・昼食交流会等を行いました。

→部会において要請のあった会員生協のセンターでの営業・配送職員向けの学習会を開催しました。

⑤再生可能エネルギーについて先進事例から学ぶ機会を設定します。

→第1回幹事会においてパルシステム電力に事業説明を依頼し、生消協会員産地における発電の実態について学びました。

→第4回幹事会では城南信用金庫の吉原毅顧問よりメガソーラーシェアリングの現状について報告をいただき、生消協役員とパルシステムグループ役職員が共に学びました。



▲パルシステム東京・練馬センター研修



▲青年農業者交流会での宮崎大学大野先生の講演

V 生消協の価値と取り組みを広め更なる発展をめざします。

①会員産地を増やすことに努めます。

→パルシステムの取引先に対し、生消協加入についての案内を継続しました。

→2017年度は2産地の新規加入があり、会員産地数は合計171産地（正会員163産地、賛助会員8産地）になりました。

②部会間の連携を促進し、産地相互の関係強化と発展を目指します。

→野菜部会と果樹部会が連携し、青果フォーラムを開催しました。

③ホームページを活用し、生消協の取り組みを伝える活動を行います。

→各種イベントの周知、開催報告の掲載を行い、情報発信を行いました。

→今後の情報発信のあり方について幹事会で意見交換を行いました。



▲青果フォーラムの様子



▲生産者運営委員会（パル・ミーティング開催）の様子

2017年度 パルシステム生産者・消費者協議会 決算書

貸借対照表
2017年12月31日現在

(単位:円)

資産の部		負債及び剰余金の部	
普通預金	3,576,972	未払金	1,865,352
未収金	0	預り金	0
立替金	0	仮受金	0
		流動負債合計	1,865,352
流動資産合計	3,576,972	負債合計	1,865,352
		前期繰越金	5,302,320
		当期剰余金	△ 3,590,700
		剰余金合計	1,711,620
資産合計	3,576,972	負債・剰余金合計	3,576,972

損益計算書

自2017年1月1日 至 2017年12月31日

(単位:円)

会費収入		20,380,001
収入計		20,380,001
委託費	3,600,000	
通信費	2,949,753	
旅費交通費	664,788	
幹事会費	2,541,389	
生産者運営委員	3,587,661	
消費者運営委員	2,437,646	
ブロック会議費	2,769,534	
部会活動補助費	1,133,332	
調査研究費	98,173	
会議費	2,249,156	
ホームページ運営費	0	
産地ビジョン編集費	797,040	
SNS開発費	0	
事務所負担費	388,800	
会計委託費	194,400	
渉外費	123,378	
顧問費	227,392	
国際交流費	0	
消耗品費	94,035	
雑費	114,712	
支出計	23,971,189	
事業剰余金		△ 3,591,188
雑収入	488	488
当期剰余金		△ 3,590,700
前期繰越金		5,302,320
次期繰越金		1,711,620

2017年度 パルシステム生産者・消費者協議会 予算比較表

自 2017年 1月 1日 至 2017年 12月 31日

(単位:円)


勘定科目		当期予算額	当期実績額	予算増減額	予算対比	備考
収入	会費収入(生産者)	11,000,000	11,180,000	180,000	101.6%	
	会費収入(パルグループ)	9,200,000	9,200,001	1	100.0%	生産者 パルシステムグループ
	合計	20,200,000	20,380,001	180,001	100.9%	
支出	委託費	3,900,000	3,600,000	△ 300,000	92.3%	事務局人件費
	通信費	2,500,000	2,949,753	449,753	118.0%	カタログ発送費=2,000,000 その他通信費=500,000
	(カタログ発送費)	2,000,000	2,785,381	785,381	139.3%	
	(その他通信費)	500,000	164,372	△ 335,628	32.9%	
	旅費交通費		664,788	664,788	0.0%	事務局旅費交通費
	幹事会費	3,450,000	2,541,389	△ 908,611	73.7%	交通費=2,400,000(会議開催回数5を想定=400,000×5,事務局会議時の交通費80,000×5) 活動補助費=750,000 公開確認会派遣費=500,000 事務局会議費100,000
	(交通費)	2,000,000	1,756,954	△ 243,046	87.8%	
	(活動補助費)	750,000	449,960	△ 300,040	60.0%	
	(公開確認会派遣)	500,000	150,888	△ 349,112	30.2%	
	(事務局会議費)	200,000	183,587	△ 16,413	91.8%	
	生産者運営委員会費	3,300,000	3,587,661	287,661	108.7%	交通費=1,000,000(会議開催回数) 活動補助費=300,000
	(交通費)	1,000,000	1,050,523	50,523	105.1%	リーダー研修補助=1,500,000 ほんもの実感!同乗研修=500,000
	(活動補助費)	300,000	73,151	△ 226,849	24.4%	
	(リーダー研修補助)	1,500,000	2,035,233	535,233	135.7%	
	ほんもの実感!同乗研修	500,000	428,754	△ 71,246	85.8%	
	消費者運営委員会	2,800,000	2,437,646	△ 362,354	87.1%	青年農業者交流会=300,000 女性生産者交流会=700,000 消費者幹事交通費=1,700,000 その他活動費等=100,000
	(青年農業者交流会)	300,000	130,996	△ 169,004	43.7%	
	(女性生産者交流会)	700,000	660,042	△ 39,958	94.3%	
	(消費者幹事交通費)	1,700,000	1,573,658	△ 126,342	92.6%	
	(活動補助費)	100,000	72,950	△ 27,050	73.0%	
	ブロック会議費	2,600,000	2,769,534	169,534	106.5%	関東・中部=1,000,000 東北・北海道=800,000 関西・以西=800,000
	(関東・中部)	1,000,000	759,512	△ 240,488	76.0%	
	(東北・北海道)	800,000	606,997	△ 193,003	75.9%	
	(関西・以西)	800,000	640,737	△ 159,263	80.1%	
	(合同)		762,288	762,288		
	部会活動補助費	1,950,000	1,133,332	△ 816,668	58.1%	部会活動補助総額=1,150,000 産直講座交通費=800,000
	(部会活動補助)	1,150,000	826,774	△ 323,226	71.9%	
	(産直講座交通費)	800,000	306,558	△ 493,442	38.3%	
	調査研究費	100,000	98,173	△ 1,827	98.2%	品質向上対策、購読購入など。
	会議費	2,100,000	2,249,156	149,156	107.1%	総会費用=2,000,000 農法研究会=370,000
	(総会費用)	1,700,000	1,816,444	116,444	106.8%	
	(農法研究会)	400,000	432,712	32,712	108.2%	
	ホームページ運営費	0	0	0	0.0%	メンテナンス費用他
	産地ビジョン編集費	800,000	797,040	△ 2,960	99.6%	フェイスブック、ブログなどの情報の相互共有化を強化
	事務所負担費	383,400	388,800	5,400	101.4%	半期毎の支払い
	会計委託費	191,700	194,400	2,700	101.4%	半期毎の支払い
渉外費	500,000	123,378	△ 376,622	24.7%	慶弔関係費、自然災害等の見舞金対応予算 ※1	
アドバイザー経費(顧問費)	400,000	227,392	△ 172,608	56.8%	会議、企画に応じ必要な方を依頼	
消耗品費	100,000	94,035	△ 5,965	94.0%	封筒作成、文具等	
雑費	100,000	114,712	14,712	114.7%	支払手数料、賛助金、団体会議等=100,000	
合計	25,175,100	23,971,189	△ 1,203,911	95.2%		
事業剰余金	△ 4,975,100	△ 3,591,188	1,383,912	72.2%		
雑収入	0	488	488	0.0%		
剰余金	△ 4,975,100	△ 3,590,700	1,384,400	72.2%		
前期繰越金	5,302,320	5,302,320	0	100.0%		
次期繰越金	327,220	1,711,620	1,384,400	523.1%	※2	


※1 自然災害等の見舞金対応予算については、該当の災害等が無かった場合は、次期繰越金とします。

※2 翌年の会費が入る前、1～3月の3ヶ月間は、つなぎ資金が必要となります。

監査報告書

2018年2月1日
パルシステム生産者・消費者協議会

監事 松崎 智明 

監事 田原 けい子 

次のように2017年度、年間監査を行いましたので下記にご報告申し上げます。

記

1. 監査日時 2018年2月1日(木) 15:00~16:00
2. 監査の場所 パルシステム連合会 2F応接室
3. 監査立会人 パルシステム生産者・消費者協議会 代表幹事 大津清次
パルシステム連合会経理部 関本真司
生消協事務局 吉川光洋
4. 監査方法
貸借対照表、損益計算書、総勘定元帳、補助簿等の提出を求め、監査を行いました。
5. 監査意見
会計収支は適正に処理されていることを認めます。
6. 附帯意見
パルシステム生産者・消費者協議会の活動が活発になるよう、適正な予算執行が行われることを望みます。

以上

第2号議案

2018年度活動方針並びに予算案承認の件

《2018年度 方針案》

I 農畜産業を取り巻く厳しい状況に対応するために、「産地ビジョン」を活用した情報共有や学習を行い、次世代のリーダーを育成し、産地と地域の活性化を目指します。

- ① 情勢の変化や少子高齢化社会への対応について、パルシステムグループと連携し、牽引する次世代リーダー育成を継続します。
- ② 経済情勢や労働力不足への対応について、国内外の先進事例から学ぶ機会を創出します。
- ③ 産地がそれぞれの地域や行政と関わりながら、農福連携や都市・地方のコミュニティ再生に取り組んでいる事例について学びます。
- ④ 「産地ビジョン」の具現化に向け、産地の取組み・課題・進捗状況等を共有します。
- ⑤ 国産志向を高める学習を行い、食料自給率向上に取り組めます。また、飼料米を使用したこめ卵、こめ豚、こめ鶏の普及を後押しします。
- ⑥ 女性生産者間の交流の場の拡大と女性の活躍について学習できる場として、女性生産者交流会の充実を図ります。

II 環境保全型農業を推進します。

- ① コア・フード、エコ・チャレンジ基準農産物の生産と消費の拡大に取り組めます。
- ② エコ・チャレンジ基準の見直し検討の議論を継続します。エコ・チャレンジが目指す環境保全型農業とは何かを、生産者と消費者で十分な議論を行います。
- ③ 化学合成農薬・化学合成肥料の削減による土作りを継続し、生物多様性に寄与する環境保全型農業を推進と生きもの調査による検証及び産地間の情報共有を行います。
- ④ より多くの組合員に環境保全型農業への理解を深める機会を作り、消費拡大に努めます。

III 農畜産物の生産性向上を目指します。

- ① 生産者と消費者の品質に対する考え方を共有し、品質向上及び安定供給の取り組みを継続します。
- ② 出荷基準の確認・見直しの場の設定など部会での議論を行います。
- ③ 生産に関するリスク管理の仕組みづくりを推進します。
- ④ 生産物の付加価値向上による生産者の所得向上を目指します。
- ⑤ 物流問題における品質向上やコストなど、課題解決に向けた取り組みを行います。

IV 生消協および産地の取り組みを「伝え」、「交流する」活動に取り組めます。

- ① パルシステムの「ほんもの実感！」くらしづくりアクションへの取り組みに積極的に参加します。
- ② 東京電力福島第一原発事故を風化させないための活動を継続するとともに、産地における発電の取り組みや再生可能エネルギーについて理解を深めます。
- ③ 会員生協を中心に配送同乗体験や職員・組合員への学習会に共に取り組み、お互いの理解を深めます。またその効果を検証しながら次の取り組みに繋げていきます。

V 生消協の価値と取り組みを広め更なる発展をめざします。

- ① 「ほんもの実感」の取り組みをさらに推進するため、SDGs^{※注1}への理解を深め生消協として取り組める課題を模索します
- ② 会員産地を増やすとともに、生消協の活動への理解促進や積極的な参加を促せるような体制づくりに努めます。
- ③ 部会間の連携を促進し、産地相互の関係強化と発展を目指します。
- ④ ホームページ等を活用し、生消協の取り組みを伝える広報活動を積極的に行います。

注1：SDGs（持続可能な開発目標）

2015年に国連サミットで採択された2030年までの国際目標。持続可能な世界を実現するための17のゴール、169のターゲットで構成され「地球上の誰一人として取り残さない」ことを誓っています。

2017年に新設された政府の「ジャパン SDGs アワード」で、パルシステムの「『ほんもの実感！』くらしづくりアクション」が、SDGs 推進副本部長（官房長官）賞を受賞しました。

《2018年度予算案》

期間：2018年1月1日～2018年12月31日
(単位：円)

勘定科目		予算	構成比	備考
収入	会費収入(生産者)	11,000,000	50.0%	
	会費収入(パルグループ)	11,000,000	50.0%	※パルシステムグループの年会費改定後
	収入合計	22,000,000	100.0%	
支出	委託費	3,600,000	16.4%	事務局人件費
	通信費	300,000	1.4%	通信費=300,000
	幹事会費	2,500,000	11.4%	交通費=1,600,000 活動補助費=300,000 公開確認会派遣費=500,000、事務局会議費100,000
	生産者運営委員会費	3,850,000	17.5%	交通費=1,000,000 活動補助費=150,000 リーダー研修補助=2,000,000 ほんもの実感！同乗研修=700,000
	消費者運営委員会	3,100,000	14.1%	青年農業者交流会=700,000 女性生産者交流会=700,000 消費者幹事交通費=1,600,000 その他活動費等=100,000
	ブロック会議費	2,000,000	9.1%	関東・中部=800,000 東北・北海道=600,000 関西・以西=600,000
	部会活動補助費	2,150,000	9.8%	部会活動補助総額=1,150,000 産直講座交通費=1,000,000
	調査研究費	100,000	0.5%	品質向上対策、購読購入など。
	会議費	2,100,000	9.5%	総会費用=1,700,000 農法研究会=400,000
	ホームページ運営費	500,000	2.3%	メンテナンス費用等
	産地ビジョン編集費	0		
	事務所負担費	388,800	1.8%	半期毎の支払い
	会計委託費	194,400	0.9%	半期毎の支払い
	渉外費	500,000	2.3%	慶弔関係費、自然災害等の見舞金対応予算 ※1
	アドバイザー経費	400,000	1.8%	会議、企画に応じ必要な方を依頼
	消耗品費	216,800	1.0%	封筒作成、文具等
	事務局旅費交通費	0		
	雑費	100,000	0.5%	支払手数料、賛助金、団体会費等=100,000
	支出合計	22,000,000	100.0%	
	剰余金	0		
前期繰越金	1,711,620			
次期繰越金	1,711,620		※2	

※1 自然災害等の見舞金対応予算については、該当の災害等が無かった場合は、次期繰越金とします。

※2 翌年の会費が入る前、1～3月の3ヶ月間は、つなぎ資金が必要となります。

—資料—

- 2017年度 主要活動日誌
- 幹事会・監査活動状況
- ブロック活動状況
- 生産者運営委員会活動状況
- 消費者運営委員会活動状況
- 配送同乗・センター学習会
- リーダー研修
- 公開確認会活動状況
- 「産直連続講座」活動状況
- 生消協組織規約、運営規程、会費基準及び旅費・慶弔規程

《2017年度 生消協 活動日誌 2017年3月～2018年2月》

月	日	会議・企画名	備考
3月	2日	第28回通常総会	日経ホール
	3日	会員生協別交流会	各会員生協
4月	3日	第1回消費者運営委員会	
	13日	第1回幹事会	
	13日	第1回生産者運営委員会	
	20～21日	上期 関東・中部ブロック会議	山梨県（ホテル春日居）
5月	8日	第2回消費者運営委員会	
6月	5日	第3回消費者運営委員会	
	7～8日	第2回米部会（産地研修・公開確認会）	千葉県（ちば緑耕舎）
	7～8日	上期 東北・北海道ブロック会議	北海道（富良野青果センター）
	30日	第2回生産者運営委員会	
7月	3日	第4回消費者運営委員会	
	13～14日	若手リーダー研修（単発企画）	ジーピーエス
	20～21日	幹事合宿・第2回幹事会	群馬県（野菜くらぶ）
8月	3～4日	若手リーダー研修（単発企画）	群馬県（野菜くらぶ）
	8日	第5回消費者運営委員会（フィールドワーク）	茨城県（JAつくば市谷田部）
	24～25日	第1回若手リーダー研修（経営者向け）	
	29～30日	女性生産者交流会	島根県（やさか共同農場）
9月	4～5日	上期 関西・以西ブロック会議	広島県（広島果実連）
	8日	第6回消費者運営委員会	
10月	2日	第7回消費者運営委員会	
	13日	青果フォーラム	東京都（TKPガーデンシティPREMIUM秋葉原）
	19～20日	若手リーダー研修（単発企画）	愛媛県（無茶々園）
11月	1日	第3回生産者運営委員会	
	1日	第8回消費者運営委員会	
	9～10日	青年農業者交流会	
	16日	下期東北・北海道ブロック役員会	
	17日	第3回幹事会	
	21日	産直ごはんの日	
12月	4日	第9回消費者運営委員会	
	15日	第3回米部会	
	7～8日	第2回若手リーダー研修（経営者向け）	
	7～8日	下期関東・中部ブロック役員会	山梨県
	18～19日	下期関西・以西ブロック役員会	大阪府
1月	12日	第10回消費者運営委員会	
	17日	農法研究会	東京都（朝日ホール）

1月	17日	賀詞交歓会	東京都（品川プリンスホテル）
	18日	下期合同ブロック会議	
	18日	第4回生産者運営委員会	
	29日	第11回消費者運営委員会	
2月	2日	第4回幹事会	
	8～9日	第3回若手リーダー研修（経営者向け）	

【幹事会】

月日	開催場所	議題
4月13日	東新宿事務所 会議室	<ul style="list-style-type: none"> ・2016年度予算執行状況報告について ・2017年度部会活動方針について ・年会費（パルシステムグループ負担分）金額改定案について ・カタログ発送回数変更に伴う生消協負担金額試算について ・会員生協総代会・パルシステム連合会総会日程について ・新農業委員会委員派遣依頼の件 ・2017年度役割分担表（公開確認会・ブロック会議等） ・ほんもの実感！同乗研修について ・若手リーダー研修について ・タイ・パルシステム産直協議会について ・幹事研修会・第2回幹事会について ・新規加入（登録変更）について
7月21日	みなかみ町 カルチャーセンター 会議室	<ul style="list-style-type: none"> ・消費者幹事の改選について ・副代表幹事の選出について ・年会費（パルシステムグループ負担分）改定案について ・農法研究会について ・総会内容について ・日本の種子を守る会について ・新エコについて意見交換 ・リーダー研修参加者一覧、総会報告について ・「第1回パルシステムでんき発電産地交流会」 ・新規加入について
11月17日	東新宿事務所 会議室	<ul style="list-style-type: none"> ・2018年度活動方針案について ・生消協年会費改定について ・農法研究会について ・新年2企画（公開確認会報告会、農法研究会）の参加対象者について ・第29回通常総会・県別交流会報告について ・カタログ発送費の見直しについて

2月2日	東新宿事務所 会議室	<ul style="list-style-type: none"> ・役員改選のための委員会設置について ・次年度活動方針案について ・次年度予算案について ・総会進行案について ・総会・会員生協別交流会参加者集約状況 ・新規加入について ・2018年度・年間会議スケジュール案
------	---------------	---

【監査】

月日	開催場所	内容
11月2日	東新宿事務所 会議室	2017年1月1日～6月30日までの半期決算監査
2月1日	東新宿事務所 会議室	2017年1月1日～12月31日までの年間決算監査

【上期ブロック会議】

月日	ブロック	開催場所	概要
4月20日～21日	関東・中部	山梨県	<ul style="list-style-type: none"> ・参加者103名（32産地） ・受入産地：山梨県 ・受入産地よりプレゼンテーション ・消費者幹事報告 ・グットファーム・やはた会視察
6月8日～9日	東北・北海道	北海道	<ul style="list-style-type: none"> ・参加者71名（13産地） ・受入産地：北海道富良野 ・受入産地よりプレゼンテーション ・消費者幹事報告 ・富良野青果センター圃場視察
9月4日～5日	関西・以西	広島県	<ul style="list-style-type: none"> ・参加者57名（17産地） ・受入産地：広島県 JA広島果実連 ・受入産地よりプレゼンテーション ・消費者幹事報告 ・路地レモン・ハウスレモン圃場視察

【下期ブロック役員会議】

月日	ブロック	開催場所	概要
12月7日～8日	関東・中部	山梨県	・2017年度ブロック会議の振り返り

12月7日～8日	関東・中部	山梨県	・2018年度ブロック会議についての検討
11月16日	東北・北海道	東京都	・2017年度ブロック会議の振り返り ・2018年度ブロック会議についての検討
12月18日～19日	関西・以西	大阪府	・2017年度ブロック会議の振り返り ・2018年度ブロック会議についての検討

【生産者運営委員会】

月日	開催場所	議題
4月13日	東新宿事務所 会議室	<ul style="list-style-type: none"> ・第29回総会会場について ・部会活動方針について ・ほんもの実感！同乗研修について ・若手リーダー研修について ・タイ・パルシステム産直協議会について ・新農業委員会出席役員調整について
6月30日	パル・ミート 会議室	<ul style="list-style-type: none"> ・パル・ミートの役割について ・エコ見直し検討委員会について ・農法研究会のテーマ・内容について ・部会ごとの議論、ディスカッション（今年の生育状況、産地での課題、エコ見直し等）
11月1日	東新宿事務所 会議室	<ul style="list-style-type: none"> ・生消協年会費改定について（進捗報告） ・総会等 役割分担について ・農法研究会のテーマ・内容について ・カタログ発送費用削減についての希望調査 ・2018年度活動方針について
1月18日	日経カンファレンス ルーム	<ul style="list-style-type: none"> ・2018年度活動方針について ・2018年度スケジュール案について

【消費者運営委員会】

月日	開催場所	議題
4月3日	東新宿事務所 会議室	<ul style="list-style-type: none"> ・年間スケジュールの確認 ・企画別参加委員の割り振り ・フィールドワークについて ・会員生協年会費の確定
5月8日	東新宿事務所 会議室	<ul style="list-style-type: none"> ・消費者幹事変更についてのご案内 ・フィールドワークについて ・女性生産者交流会について ・年間スケジュールについて

5月8日	東新宿事務所 会議室	<ul style="list-style-type: none"> ・ 会員生協年会費の改定について ・ テレビ会議の導入について
6月5日	林野会館 会議室	<ul style="list-style-type: none"> ・ 女性生産者交流会について（開催概要調整） ・ 8月フィールドワーク概要について ・ 年間スケジュールの確認 ・ 消費者運営委員会の開始時間について ・ 7月の消費者運営委員会について
7月3日	東新宿事務所 会議室	<ul style="list-style-type: none"> ・ 女性生産者交流会について ・ 企画別委員の割り振りについて ・ 年間スケジュールの確認 ・ 【講演①】生消協の歴史と役割（香取アドバイザー） ・ 【講演②】農薬削減に関する説明（環境活動推進課 松本氏）
8月1日	東新宿事務所 会議室	<ul style="list-style-type: none"> ・ フィールドワークについて ・ 女性生産者交流会について ・ 東北・北海道ブロック会議について ・ 青年農業者交流会について
8月8日	フィールドワーク	<ul style="list-style-type: none"> ・ エコ・チャレンジで使用禁止農薬の使用が認められた圃場の視察、使用に至った経緯を確認するフィールドワーク。 ・ 対象産地：JAつくば市谷田部（茨城県）
10月2日	東新宿事務所 会議室	<ul style="list-style-type: none"> ・ フィールドワーク各委員まとめ ・ 生消協年会費改定について（必要書類確認） ・ 青年農業者交流会について（第一次集約状況） ・ 2018年度活動方針について ・ 年間スケジュールの確認
11月1日	東新宿事務所 会議室	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生消協年会費改定について（進捗報告） ・ 産直ごはんの日について ・ 農法研究会（パネルディスカッションについて） ・ 2018年度活動方針（案）について
12月4日	東新宿事務所 会議室	<ul style="list-style-type: none"> ・ 農法研究会について ・ 生消協年会費改定について ・ 2017年度活動報告について ・ 2018年度活動方針について
1月12日	東新宿事務所 会議室	<ul style="list-style-type: none"> ・ 産直ごはんの日会員生協開催に向けて ・ 総会・会員生協別交流会について ・ 2017年度活動報告について ・ 2018年度活動方針について ・ 2018年度・年間スケジュール（案）について

1月29日	東新宿事務所 会議室	<ul style="list-style-type: none"> ・2017年度活動報告について ・2018年度活動方針について ・2018年度・年間スケジュール（案）について
-------	---------------	---

【ほんもの実感センター研修（パルシステム東京）】

月日	企画	協力産地
6月29日	第1回 (練馬センター)	<ul style="list-style-type: none"> ・参加者41名（生産者7産地9名、パルシステム東京17センターから24名ほか）。 ・産地ビジョンの報告、試食、グループワーク。
12月8日	第2回 (板橋センター)	<ul style="list-style-type: none"> ・参加者38名（生産者5産地6名、パルシステム東京17センターから24名ほか）。 ・産地ビジョンの報告、試食、グループワーク。
12月9日	第3回 (練馬センター祭)	<ul style="list-style-type: none"> ・参加産地（食材提供産地）は野菜くらぶ、沃土会、アップルファームさみず、ポークランドグループ、庄内協同ファーム。 ・150組453名の来場者があった。

【若手リーダー研修（単発企画）】

月日	企画	内容
7月13日 ～14日	第1回 (株式会社 ジーピーエス)	<ul style="list-style-type: none"> ・参加者20名（生産者9産地12名、パルシステムグループ8名ほか）。 ・(株)ジーピーエスのビジョン説明。 ・(株)ジーピーエスの農産物のカット、小分け、検品作業視察。 ・パルシステム連合会のセットライン（荷受・搬出等を含む）視察。 ・(株)コモテック人材開発研究所 井上淳信氏、(一社)くらしサポート・ウィズ 志波早苗氏による講義。
8月3日～4日	第2回 (株式会社野菜くらぶ、くらぶち草の会)	<ul style="list-style-type: none"> ・参加者26名（生産者10産地13名、パルシステムグループ6名ほか）。 ・(株)野菜くらぶ出荷場、真空冷却槽、(株)サングレイスの圃場見学など。 ・くらぶち草の会 集出荷場の見学。
10月19日 ～20日	第3回 (株式会社地域法人 無茶々園)	<ul style="list-style-type: none"> ・参加者35名（生産者11産地11名、パルシステムグループ7名ほか）。 ・ワークショップ（みかんの皮を活用した入浴剤作り）、産地ビジョン説明、山の見学（柑橘圃場、収穫体験）、海の見学（真珠・ちりめん）など。

【若手リーダー研修（経営者向け連続企画）】

月日	企画	内容
8月24日 ～25日	第1回	<ul style="list-style-type: none"> ・産直産地の若手生産者およびパルシステム職員の計38名が参加。 ・講演①片山元治氏（株式会社 地域法人無茶々園 創設者） ・講演②山本伸司氏（パルシステム連合会 顧問） ・2016年度研修の振り返り。 ・次世代の産直理念についてグループワーク。
12月7日～8日	第2回	<ul style="list-style-type: none"> ・講演①日本労働者協同組合連合会 古村理事長 ・講演②株式会社同文社（のんびる編集長） 前田氏 ・「何のために産直を行うか」と題したグループワーク。
2月8日～9日	第3回	<ul style="list-style-type: none"> ・「組織・産地のリーダーとして今後何を指すか」、「生消協の一員としてどんな産直を目指すか」グループワークと決意表明を実施 ・総会報告者の決定 ・次年度研修案の報告

【公開確認会】

月日	開催地	公開確認会開催産地名	監査品目	会員生協
6月7日～8日	千葉県	ちば緑耕舎	コア・フード、エコ・チャレンジ米	パルシステム千葉
9月7日～8日	山形県	米沢郷牧場	米沢郷鶏	パルシステム連合会
9月21日～22日	青森県	トキワ養鶏	コア・フード 平飼いたまご トキワ玄米たまご	パルシステム東京
10月5日～6日	茨城県	エコーたまづくり	れんこん	パルシステム茨城
10月11日～12日	神奈川県	ジョイファーム小田原	コア・フード キウイフルーツ	パルシステム神奈川 ゆめコープ

【産直連続講座】

	開催日	会員生協	開催産地名	講義内容	参加人数
1	7月7日（金） 10:00～12:30	埼玉	JA広島 果実連	<ul style="list-style-type: none"> ・生産者の岩崎太郎氏、JA 広島果実連・東京支所及川正明氏をお招きし、輸入レモンと国産レモンの違いや周年供給に関する特殊な包材や貯蔵庫の取組みについてお話いただき、質疑応答も活発であった。 ・講座後は、食育サポーターが調理したレモン尽くしのメニューを試食した。 	22名

2	7月13日(木) 10:00~13:00	山梨	米沢郷牧場	<ul style="list-style-type: none"> ・「パワフル“チキン”で夏を乗り切ろう！」と題し、パルシステムで取り扱っている鶏肉の生産過程や取り組みについて、講座を行った。 ・鶏肉の食べ比べやパルシステムの食材を使ったランチを食べながら、生産者との交流を実施。 ・組合員からは「おいしい鶏肉が出来るまでに至る過程、環境や飼料など詳しく聞くことが出来、とても良かったです。」など、好評の声が多くあがった。 	15名
3	7月21日(金) 10:00~12:40	福島	すすき牧場	<ul style="list-style-type: none"> ・すすき牧場の薄代表より産地の事や飼育状況を学んだ。 ・昼食の牛丼を調理した担当より「アクが出ない」などの話があり、また美味しく食べる秘訣をご教授いただき、試食を通じてまさに舌で商品の良さを実感した学習会であった。 	27名
4	7月25日(火) 10:30~12:30	東京	白州 森と水の里センター	<ul style="list-style-type: none"> ・白州 森と水の里センターの高草木様を講師としてお招きし、コア・フード平飼いたまごの生産におけるこだわりや、BMWの取り組み等、産地の映像を見ながらご説明いただいた。 ・たまごかけごはんやきゅうり・ミニトマト・ナス等の野菜類、そしてプリンといった産地自慢の食材を試食。 	24名
5	8月10日(木) 10:00~12:30	埼玉	菜の花エッグ	<ul style="list-style-type: none"> ・組合員と小学生以上の子どもを対象に開催。 ・梅原正一氏による取り組みが紹介され、講義中には“たまご検定”クイズを行ない、楽しみながらたまごの知識を深めることができた。 ・白だしのみを使用した茶碗蒸しを調理、試食した。 	32名
6	9月5日(火) 10:30~13:00	山梨	ポークランドグループ	<ul style="list-style-type: none"> ・豊下代表による映像を交えたプレゼンテーション。ポークランドグループの成立ちや、若者が希望を持って働いている姿が紹介された。 ・一般市場に出回っている肉の実態(飼育方法や加工など)の報告もあり、衝撃的なところもあった。 ・こめ豚のしゃぶしゃぶの試食も行い、ちょうど「塩だけ」のCMの放映中の時期だったので、その食べ方も体験いただけた。 	40名
7	9月12日(火) 10:00~13:00	群馬	JAつくば市谷田部	<ul style="list-style-type: none"> ・「放射能の影響が心配で、きのこを購入するのが不安」という組合員の声から、東日本大震災以降の産地の取り組みについて学習した。 ・「きのこのカレー」「しいたけのチーズ焼き」「きのこのサラダ」を調理実習で扱い、試食交流を行った。 ・組合員からは「今まで不安だったが、今日からは安心して購入できる」などの感想が多数あがった。 	21名

8	9月14日(木) 10:00~12:00	埼玉	宮北牧場	<ul style="list-style-type: none"> ・宮北輝氏をお招きし、牧場の歴史や輸入飼料に頼らない、牛の生理に合った飼育方法、そしてアンガス牛へのこだわりなどについて話を伺った。 ・パル・ミートの割石氏からはコア・フード牛肉の取り組みについて説明があった。 ・感謝して大切な命をいただきたいと思う等、多くの感想が寄せられた。 	32名
9	9月15日(金) 10:30~13:00	東京	宮北牧場	<ul style="list-style-type: none"> ・宮北牧場代表の宮北氏による講演では、宮北牧場の歴史や、コア・フード牛を飼育していく中での苦勞、それでも取り組み続ける熱い想いが語られた。 ・パル・ミートの望月氏からは、コア・フードの牛肉の牛の品種や特徴、一般的な交雑牛肉との違いを学習。 ・コア・フード牛の試食も行い、知識だけでなく、美味しさも実感できた。 	21名
10	9月15日(金) 10:00~13:00	神奈川	佐原農産物 供給センター	<ul style="list-style-type: none"> ・講座では産地の香取氏より、産直の歴史や栽培の違い、産地の特色として若手生産者の支援や女性部の活躍についてお話を伺った。 ・組合員からは「管理体制がしっかりとされていることがわかった。今後も安心して食べたい」などの感想あり。 ・農め〜くらぶの3名が講師となり、産直野菜を活用したレシピ4品を調理し、試食交流を行った。 	35名
11	9月26日(火) 10:00~12:00	茨城	なかむら 農園	<ul style="list-style-type: none"> ・なかむら農園の歴史、産地の特徴や取り組み、栽培方法のこだわり等について講座を行った。 ・「これからもこのような企画があるとより産地が身近に感じられて嬉しい」といった感想が組合員からあがった。 	15名
12	9月29日(金) 10:00~13:00	福島	佐原農産物 供給センター	<ul style="list-style-type: none"> ・佐原農産物供給センター女性部「農め〜くらぶ」の皆さんを講師に迎え、同センターの野菜を使用した野菜料理4品を参加者全員で調理した。 ・野菜でこれだけのアレンジ料理ができることや、美味しさに、参加者からは驚きの感想が。同センターを身近に感じてもらえる交流となった。 	10名
13	10月3日(火) 10:30~14:00	千葉	オルター・ トレード・ ジャパン	<ul style="list-style-type: none"> ・ATJの概要、成立ちやフェアトレード、民衆交易についてお話しいただいた。エビの養殖やその背景、市販との違いについては参加者に特にインパクトが強かった様子。 ・市販エビとエコシュリンプの食べ比べ/ガーリック・シュリンプ/エビオイルパスタ/大豆でつくる簡単フムス(パレスチナの料理)/バラゴンバナナのケーキを調理し、昼食交流を行った。 	38名

14	10月13日(金) 10:00~12:00	埼玉	野菜くらぶ	<ul style="list-style-type: none"> ・澤浦彰治氏をお招きし、産直野菜の栽培はもとより、グループ会社での産直野菜加工や太陽光発電など多岐にわたってご説明いただいた。 ・社内託児所や障がい者雇用など様々な方が働きやすいように環境を整える独自の取り組みには、参加組合員も驚嘆していた。 ・パルシステム電力の鈴木友和氏にもお越しいただき、電力事業も知る機会として、複合的な学習会の実現となった。 	19名
15	10月24日(火) 10:30~13:00	東京	J A ささかみ	<ul style="list-style-type: none"> ・石塚美津夫氏を講師に招き、40年にわたるパルシステムの産直と交流の歴史を、思い出話を交えながらご講義いただいた。 ・石塚氏の田んぼで作られたコア・フードの新潟こしひかりや、ささかみの郷土料理である「豆腐の味噌漬け」を試食した。 	26名
16	10月25日(水) 10:00~12:30	神奈川	ポークランドグループ	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでに取材を受けたTV番組の映像などを交え、産地や農場内の様子、一般の豚肉との違いやパルシステムの産直の歴史とこれまでの取り組み、今後の展望をお話いただいた。 ・試食時にはパル・ミートより、こだわりの豚肉をさらにおいしく食べるための焼き方のコツ、冷凍時の解凍方法など、実演を交えての交流を行った。 	27名
17	10月25日(水) 10:00~13:00	群馬	黒富士農場	<ul style="list-style-type: none"> ・たまごについての学習、試食交流、一般のたまごとの食べ比べ・見比べを行った。 ・昼食交流では、カフェ風ふわふわパンケーキ(2種)を調理し試食。 ・「有機のたまごをもっと応援したくなった」「日本一のたまごであると実感した」など、組合員からの感想も非常に好評であった。 	21名
18	10月26日(木) 10:00~13:00	茨城	J A つくば市谷田部	<ul style="list-style-type: none"> ・「J A つくば市谷田部の野菜を知って食べつくそう！」と題し、産地の概況をはじめ、産直部会の歩みや谷田部の野菜のこだわり、土づくりや農薬削減への取り組みについてご講演いただいた。 ・原木しいたけの特徴や栽培方法の他、東日本大震災の原発事故以降に取り組んできた5年間についてもお話いただき、産地の食材を使用した料理の試食も行った。 	15名
19	11月15日(水) 10:00~12:30	山梨	庄内協同ファーム	<ul style="list-style-type: none"> ・富樫氏より、産地の取り組みについて講演いただいた。 ・産地の稲わらを実際に使用し、「しめ飾り作り」のワークショップを開催。個性豊かな表情の「しめ飾り」が完成した。 	17名

				<ul style="list-style-type: none"> 産地のお餅を使ったランチ交流を開催。庄内風雑煮、ぜんざい、もち磯辺焼き、ココア de もち、生春巻き、赤かぶ漬け、おこしなど庄内地方の特色を活かしたメニューを調理、提供。 	
20	11月16日(木) 10:30~14:00	千葉	ポークランドグループ	<ul style="list-style-type: none"> ポークランドグループの概要や理念、日本型畜産、アニマルウェルフェアなど、数々の先進的な取り組みについてお話しいただいた。一般に流通されている輸入畜産品の危険性などの問題提起は刺激が強い内容もあったが、参加者は驚きつつも真剣に聞いていた。 昼食交流では、モモとロースのスライス部位食べ比べ(塩のみ) / 肉巻き産直野菜添え/こめ豚炊き込みごはん/こめ豚豪華豚汁を調理し、交流を行った。 	25名
21	11月21日(火) 10:00~12:30	福島	J A やさと	<ul style="list-style-type: none"> 産地の説明の後、J A やさと女性部3名に合流いただき、料理教室を開催。シフォンケーキ、蒸しプリン、パイ生地を使わないキッシュ、煮たまごを調理した。 調理の合間には、J A やさとの職員よりたまごについてのお話をいただき、素材(たまご)の良さと活用メニューの多さについても実感できた。 	22名
22	11月22日(水) 10:30~13:00	東京	ジョイファーム小田原	<ul style="list-style-type: none"> ジョイファーム小田原より鳥居氏、広石氏、鈴木氏の3名を講師としてお招きし、同産地のコア・フードのキウイやエコチャレンジの柑橘類の取り組みや問題点(課題)を中心にご講義いただいた。 キウイやみかんを試食しながら、グループトークを行い生産者との交流を図った。 	23名
23	11月22日(水) 10:00~13:00	群馬	<ul style="list-style-type: none"> JAみどりの 庄内協同ファーム オーリア 21 	<ul style="list-style-type: none"> 3団体をお呼びしての産直講座開催は初めての試み。3産地のお米について、学習および試食交流を行った。 各産地のご飯を味付け無しの小さなおにぎりで試食。その後、宮城、秋田、山形地域の「ごはんのおともと一緒に試食を行った。 	27名
24	11月28日(火) 10:30~14:00	千葉	庄内協同ファーム	<ul style="list-style-type: none"> 庄内協同ファームの概要、お米づくりの1年間等について、分かりやすくお話しいただいた。 餅3種(いそべ・きなこ・からみ) / 庄内風雑煮/庄内麩のピザ/ミニおむすび(つや姫) / ぜんざいを調理し、昼食交流を行った。 消費者の努力や支えが本当に大切であると心から思った等、組合員からは感謝を伝える感想が多数あがった。 	25名
25	12月2日(土) 10:00~13:00	茨城	すすき牧場	<ul style="list-style-type: none"> すすき牧場の沿革とパルシステムとの産直取引の経緯や、牧場の特徴についてご講義いただいた。 安心して安全な飼料を与え、いかに大切に育てているか、理解できた。 	15名

				・牧場内に古墳がある事に驚いており、是非行ってみたいとの声が組合員からあがった。	
26	12月13日(水) 10:00~12:00	神奈川	J Aつくば市 谷田部	・吉葉氏、小川氏より、産直の歩みやエコ・チャレンジ栽培、環境保全と原木しいたけ栽培の関係、そして放射能対策の現状についてお話いただいた。 ・試食では、原木栽培のしいたけのチーズのせ焼きとねぎ焼きの他、ねぎとしいたけ入りのみそ玉と当組合独自商品の交流玄米を紹介した。	40名
27	12月14日(木) 10:30~14:00	千葉	野菜くらぶ	・野菜くらぶの概要や取組み [感動農業]、グリーンリーフ設立の経緯や役割などお話しいただき、糖しぼり大根の開発から生産、出荷されるまでの貴重なお話も伺った。 ・昼食では、糖しぼりチーズ/糖しぼりとキャベツのコールスロー/野菜くらぶ風豚汁等を調理し交流をはかった。	18名
28	12月19日(火) 10:30~12:30	東京	グット ファーム	・グットファームより坂本氏を講師としてお招きし、産地の現状と生産へのこだわりを学んだ。 ・コア・フードの人参と、人参ジュース、だいどこログのレシピを参考に調理した人参スープを試食。 ・新規就農者で結成されている、有機野菜のみの生産を行っていること等、参加者の関心が高まる内容となった。	23名
29	1月16日(水) 10:00~13:00	群馬	すすき牧場	・すすき牧場より薄 一郎氏を講師としてお招きし、生産者のこだわりや牛肉についての学習会・肉の焼き方実演・パルミートの学習を実施。 ・「すすき産直牛バラ上カルビ焼肉用」「すすき産直牛切落とし」を試食し、組合員からも好評であった。 ・パルミートの徹底した管理についての講義と合わせたことにより、大変充実した産直連続講座となった。	21名
30	1月24日(水) 10:00~13:00	群馬	青木農園	・産地の取り組みやこだわりを学ぶ学習会および調理実習・試食交流を行った。 ・アップルパイ、アップルティー、りんごジャム、ふじを試食。 ・青木賢一氏による話が大変分かりやすく、特にりんごの減農薬の大変さを知る事ができ、組合員からは買って応援していきたいとの感想もあがった。	17名

以上

組 織 規 約

1990年設立総会 制定

2001年第12回総会 一部改訂

2006年第17回総会にて補強

2007年第18回総会 一部改訂

2011年第22回総会 一部改訂

2013年第24回総会 一部改定

この規約は、2013年3月7日より施行する

(名称)

第1条 この会は「パルシステム生産者・消費者協議会」と称する。

(目的)

第2条 この会は、パルシステム連合会とそれを構成する会員ならびに産直活動を進める生産者が、農業や食の問題を共通の課題とし、それぞれが生活者として相互連携し、それぞれに生きる「地域」を安全且つ豊かな「暮らしの場」とすることを目指し活動することを目的とする。

(構成)

第3条 この会は、パルシステムと産直活動を進めている生産団体・個人ならびに会員生協、連合会、(株)ジープイエス、(株)パルミートをもって構成する。

(役員)

第4条 この会は、その運営および監査のため、幹事および監事若干名をおく。

【幹事】

幹事は生産者と消費者双方から、同人数を基本とする。その選任は、生産者は各ブロック、消費者は会員生協及びパルシステムの推薦によるものとし、総会で選任するものとする。但し、消費者幹事は会員生協の都合により幹事会の承認を得て交代できることとする。任期は2年とし、再選を妨げない。なお、役員の数については年度ごとに幹事会で決める。

【監事】

監事は毎運営年度2度以上、会の財産および幹事の運営執行状況を監査しなければならない。監事については生産者1名・消費者1名とする。

(会費)

第5条 会費は、原則として事業高や構成員の数で決定し、個人・団体の特別会費の納入を妨げない。また、その額は別途定める。

2 会員に特別の事情がある場合は、幹事会の承認を得て、会費納入を免除することができる。

(運営)

第6条 運営については、別途「運営規程」に定める。

2 運営年度は、2月1日より翌年1月末日までとし、毎年一回以上総会を開く。

(所在地及び事務局)

第7条 所在地及び事務局は、東京都内におく。

(改廃)

第8条 この規約の変更は、総会の決議によらなければならない。

運 営 規 程

(総則)

第1条

パルシステム生産者・消費協議会（以下、生消協）の運営規程は、加入者の意志と参加を前提として別紙の機構図にあるように会員相互の円滑な意志疎通と目的達成のために民主的な運営を保証するものである。

(総会)

第2条

生消協会員は、平等の権利を有し1会員1名の議決権は総会において保証され、総会は原則として年一回開催されるものとする。

(幹事会)

第3条

この会は次の内容で開催する。

1. 幹事会は会規約により選任された幹事で組織する。
2. 幹事会は生産者から代表幹事1名、消費者から副代表幹事1名を選任する。なお必要に応じて生産者から代表代行幹事1名を置くことができる。
3. 幹事会は代表幹事が召集する。
4. 幹事会は総会で決議した方針に基づき、日常の運営にあたる。
5. 原則として年4回の幹事会を開催する。別途必要に応じて臨時幹事会を開催することができる。

(監事会)

第4条

1. 監事は、監査について相互の連絡、協議、意見統制及び決定のために監事会を置く。
2. 監事は、代表監事1名を監事会において互選する。

(生産者運営委員会)

第5条

■生産者運営委員会

1. 生産者幹事、ブロック役員、各部会長をもって組織する。
2. この会には委員長1名をおく。
3. 会の招集は委員長が行い、年3回以上の会議を開催するものとする。
4. 会の目的は生産者のネットワーク組織のまとめ役とし、生産者の自立的課題の整理をする。

■地域ブロック

1. ブロックは、東北・北海道ブロック、関東・中部ブロック、関西・以西ブロックとする。
2. 各ブロックはブロック長・副ブロック長を選任する。但し兼任はできない。
3. 各ブロックは、年数回のブロック会議開催と、生産者同士の地域的つながりの強化と

連帯を図る。また個々の生産者同志の意見交流、情報交換を行い生産向上に生かすものとする。

■専門部会

1. 米、野菜、果樹、畜産、鶏卵の5つを専門部会とする。
2. 各部会は互選により部会長1名を選任する。兼任はしない。必要に応じて副部会長をおくことができる。
3. 各部会ごとに年1～2回の部会を開催し、各品目ごとの課題解決に向けて学習、検討、実験などを行う。

■その他

必要に応じて幹事会の基に特別プロジェクト又は委員会を設置することができる。

(消費者運営委員会)

第6条

1. 消費者幹事をもって組織する。
2. この会は、組合員や会員生協の要望、意見他を生消協議会全体に反映させるためのまとめ役を行う。
3. 部会は必要に応じて開催するものとする。

(事務局)

第7条

1. 生消協の運営を円滑に進めるために事務局を置く。各種企画は、その都度実行委員会を組織してこれにあたる事ができる。
2. 代表の下に事務局会議を設置する。
3. 事務局会議メンバーは、代表幹事が指名し、会の円滑運営を目的として開催する。

パルシステム生産者・消費者協議会

会費基準及び旅費・慶弔規程

(会費基準)

第1条

①生産者団体

1. 生産者会費は最低会費を1万円としパルシステム連合会との前年度の年間取引高に基づき算定する。
2. 生産者会費基準はパルシステム仕入れ金額とする。但しわかりにくい場合は産地と相談する。

②消費者団体

1. 当該年度の総会で決定した予算に沿って、算定方法の基準により生・消協幹事会で確定する。
2. 会員生協の会費の確定方法は、原則として以下とする。
(ア) 消費者側(会員生協・連合会・子会社)は、当該年度の生・消協予算の概ね半分を目安に、会費として拠出する。
(イ) 会員生協総額、連合会、子会社の拠出額については幹事会で決める。
(ウ) 会員生協会費は、パルシステム(無店舗事業に限定)の当該年度の3月末登録組合員の数値(Webサーバーから抽出)を用い、その数値に応じて会員生協ごとに按分して負担する。

(会費払込)

第2条

1. 生産者側団体の会費の払い込みは、当該年度の7月末までに各団体へ請求書を発行し、9月末日までに行うものとする。
2. 消費者側団体の会費の払い込みは、当該年度の4月15日までに各団体へ請求書を発行し、4月末日までに行うものとする。
3. 賛助会員の会費額は別途相談する。
4. 取引高比例会費基準は以下とする。

基準	会費額	基準	会費額
10億円超	250,000円	5千万円超	50,000円
5億円超	200,000円	3千万円超	30,000円
3億円超	150,000円	1千万円超	20,000円
1億円超	100,000円	1千万円以下	10,000円
7千万円超	70,000円		

(役員・事務局旅費支給規程)

第3条

1. 生消協幹事会・生産者運営委員会・消費者部会・事務局又は会として認められるその他会合への出席のための旅費の支給は本規定による。
2. 交通費はその都度申告しあらかじめ指定された口座に振り込む。
3. この規定の変更は幹事会の議決により行う。

(慶弔規程)

第4条

1. 生消協の関連団体の慶弔に関する事項は、この慶弔規定による。金額などの裁定は代表が決定する。
2. その他生消協関連団体の慶弔については、原則として生消協が会員を代表して行うものとする。
3. この規定の変更は幹事会の議決により行う。

(事務局)

第5条

1. 事務局の選任は幹事会が行う。
2. 雇用は連合会が行う。
3. その他必要事項については幹事会が裁定する。

パルシステム生産者・消費者協議会 会員名簿

北海道・東北ブロック		関東・中部ブロック	
1	あいづグリーンネットワーク	45	有倉きのご園
2	会津よつば農業協同組合	46	アルプス農業協同組合
3	秋田ふるさと農業協同組合	47	有限会社 伊豆鶏業
4	花巻農業協同組合	48	魚沼みなみ農業協同組合
5	うもれぎの会	49	農事組合法人 エコータまつくり
6	榎本牧場	50	えちご上越農業協同組合
7	株式会社 エプロン	51	遠州中央農業協同組合
8	有限会社 大牧農場	52	有限会社 小川和男養鶏場
9	大潟村産直会 オーリア21	53	株式会社 オルター・トレード・ジャパン
10	雄勝りんご生産同志会	54	勝沼平有機果実組合
11	山形おきたま農業協同組合	55	神奈川中央養鶏農業協同組合
12	奥中山高原農協乳業株式会社	56	金沢市農業協同組合
13	音更町農業協同組合	57	かなもと青果株式会社
14	株式会社 花兄園	58	有限会社 北浦軍鶏農場
15	かづの農業協同組合	59	北蒲みなみ農業協同組合
16	北いぶき農業協同組合	60	峡南鶏友会
17	黒田ファームグループ	61	有限会社 ギルド
18	有限会社 ゴールド農園	62	農事組合法人 グットファーム
19	小清水町農業協同組合・健土塾	63	久望農園
20	こまち農業協同組合	64	くらぶち草の会
21	農事組合法人 土別農園	65	有限会社 黒富士農場
22	土別市多寄有機農業研究会	66	BM自然塾 有限会社 謙信の郷
23	庄内たがわ農業協同組合	67	農事組合法人 埼玉県産直協同
24	農事組合法人 庄内協同ファーム	68	佐久浅間農業協同組合
25	津軽みらい農業協同組合	69	ささかみ農業協同組合
26	合同会社 天童果実同志会	70	佐渡農業協同組合
27	常盤村養鶏農業協同組合	71	農事組合法人 佐原農産物供給センター
28	ノーザンびーふ産直協議会	72	有限会社 サンドファーム旭
29	有限会社 花咲農園	73	サン・ファーム
30	有限会社 富良野青果センター	74	三里塚農法の会
31	ポークランドグループ	75	澁谷養鶏農場
32	までっこチキン生産者連絡協議会	76	株式会社 JAしみずサービス
33	株式会社 丸公	77	首都圏とんトン協議会
34	株式会社 マルタ	78	有限会社 ジョイファーム小田原
35	みちのく野菜倶楽部	79	常総センター
36	みどりの農業協同組合	80	常総ひかり農業協同組合 産直研究会
37	山形コープ豚産直協議会	81	特定非営利活動法人 食農ネットささかみ
38	株式会社 米沢郷牧場	82	ゼスプリ インターナショナル・ジャパン株式会社
		83	農事組合法人 村悟空
		84	株式会社 第一清瀬出荷組合
		85	有限会社 タカハシ養鶏場
		86	株式会社 ちば風土の会
		87	ちばみどり農業協同組合 海上野菜組合産直部
		88	有限会社 ちば緑耕舎
		89	有限会社 寺島農場
		90	東光寺生協葡萄協力会
関東・中部ブロック			
39	青木農園		
40	農事組合法人 旭愛農生産組合		
41	有限会社 旭鶏園		
42	あじたま販売株式会社		
43	有限会社 アップルファームさみず		
44	有機栽培あゆみの会		

関東・中部ブロック	
91	有限会社 栃木元気会
92	とちのみ会
93	有限会社 トップリバー
94	利根川生産者グループ
95	株式会社 ナカショクミートフーズ
96	佐久ゆうきの会
97	株式会社 菜の花エッグ
98	にいがた南蒲農業協同組合
99	有限会社 日本の稲作を守る会
100	白州たまご生産組合
101	白州 森と水の里センター
102	農事組合法人 葉菜野果産直
103	バンラート農業協同組合
104	フォレスト・ファーム
105	有限会社 フレンズファーム
106	株式会社 ファーマン
107	北海道農業協同組合連合会
108	農事組合法人 増野
109	マルハニチロ株式会社
110	三浦半島EM研究会
111	山梨御坂くだもの倶楽部
112	南伊豆太陽苑生産者グループ
113	南埼玉産直ネットワーク
114	株式会社 野菜くらぶ
115	やさと農業協同組合
116	つくば市谷田部農業協同組合 産直部会
117	株式会社 八街産直会
118	農事組合法人 八千代産直
119	やはた会
120	有限会社 沃土会
121	農事組合法人 和郷園

関西・以西ブロック	
122	イシハラフーズ株式会社
123	株式会社 沖縄物産企業連合
124	おても会
125	鹿児島くみあい食品株式会社
126	鹿児島くみあいチキンフーズ株式会社
127	紀南農業協同組合 田辺印の会
128	紀ノ川農業協同組合
129	有限会社 九州青果物流通センター
130	草枕グループ
131	有限会社 高生連
132	高知はた農業協同組合
133	株式会社 ささ営農
134	さんまる柑橘同志会
135	有限会社 島原自然塾
136	株式会社 すすき牧場
137	有限会社 大紀コープファーム
138	農事組合法人 たいよう農園

関西・以西ブロック	
139	たじま農業協同組合
140	株式会社 長有研
141	農事組合法人 ながさき南部生産組合
142	有限会社 なかむら農園
143	西宇和果実出荷組合
144	西日本有機農業生産組合
145	広島県果実農業協同組合連合会
146	福岡八女農業協同組合
147	フレッシュダイレクト (株式会社トラスト)
148	ほとけの里産直部会
149	有限会社 真南風
150	有限会社 マルハ園芸
151	有限会社 三皿園
152	肥後あゆみの会 水俣・不知火ネットワーク
153	株式会社 地域法人無茶々園
154	有限会社 やさか共同農場
155	一般財団法人 夢産地とさやま開発公社
156	有限会社 ゆらぎふあーむ

賛助会員	
157	大隅地区養まん漁業協同組合
158	恩納村漁業同組合
159	有限会社カネモ
160	釧路市漁業協同組合
161	富栄海運有限会社 唐津営業所 シーボーン昭徳
162	全国漁業協同組合連合会
163	長崎県漁業協同組合連合会
164	野付漁業協同組合

パルシステム関係	
165	生活協同組合パルシステム東京
166	生活協同組合パルシステム神奈川ゆめコープ
167	生活協同組合パルシステム千葉
168	生活協同組合パルシステム埼玉
169	生活協同組合パルシステム茨城
170	生活協同組合パルシステム山梨
171	生活協同組合パルシステム群馬
172	生活協同組合パルシステム福島
173	生活協同組合パルシステム静岡
174	パルシステム生活協同組合連合会
175	株式会社 パル・ミート
176	株式会社 ジーピーエス

■会員数 (2018年3月1日時点)

東北・北海道ブロック	38 会員
関東・中部ブロック	83 会員
関西・以西ブロック	35 会員
賛助会員	8 会員
パルシステム関係	12 会員
合計	176 会員